

令和2年度 第3回 宇部市地域自立支援協議会 会議録

日 時:令和3年3月18日(木) 18:00~20:00

場 所:宇部市総合福祉会館 2階 ボランティア交流ホール(大)

出席者:委員 13名(出席委員のうち Web での参加5名)(欠席者5名)

委員 土屋会長、溝田副会長、蔵本委員、安光委員、枝村委員、錦谷委員、
縄田委員、長谷川委員、赤川委員、笹部委員、河谷委員、井上委員、藤井委員
市 健康福祉部 佐々木部長
障害福祉課 佐々木課長、石津主幹、井上副課長、上田係長、深津係長、
宮原主任
宇部市社会福祉協議会 藤笠課長、島田係長

1 報告

(1) 障がい等地域支援ブロック会議の報告(資料1)

(事務局)障がい等地域支援ブロック会議(令和2年10月から令和3年2月)について説明
(会長)説明についてのご意見、ご質問はあるか。

■質疑応答等

●精神障害に限らず緊急ショートの必要性が重要になるのではないか。高齢の親が倒れて入院し、急に1人になったという事例があったが、その方は自活できた。自活が難しい方を緊急的に受入れることができる施設が市内にどれだけあるのか。ハイツふなきがあるので大変助かる部分もあるが、短い時間でどのようなサービスが使えるのか考えないといけない。

(会長)長い間、ブロック会議に関わっているが、多職種の間が集まり、そこでの情報交換や顔つなぎをすることが大事なのではないか。

(2) 地域の課題の最優先項目の取り組みについて(資料2)

(事務局)地域課題の最優先項目の取組実績及び今後の取組について説明
(会長)説明についてのご意見、ご質問はあるか。

■質疑応答等

●3月からの法定雇用率の引き上げに伴う影響はあるか。

(会長)法定雇用率の引き上げという大変大きな社会変動が起こっていると認識しているが、ハローワークの方が欠席しているので、就職を控えた総合支援学校の3年生はどうか。

●今年度の総合支援学校は、4月に学校が始まってすぐに休校になった。これは非常に影響が大きく、特に3年生は、通常すぐに関係者の会議を行い、決まったところから実習に行くという形をとっていたが、実習先が受け入れできなかった。病院、介護施設、飲食関係が多く、そこでの実習が受けられなくなり、実際には、7月、8月ぐらいから秋になった。就職できた生徒もいたが、移行

支援事業所を利用することになるケースも多かった。

●グループホームを開設する時に事前に地域住民への説明会を行ったが、開設後に苦情が寄せられた。日中のサービス支援型に関しては、フェンスを設置して欲しいといった意見があり、外部サービス型に関しては、仕事に出たりする方が入るということを説明し、納得していただいた。地域の方へ理解していただくには時間がかかると感じる。

(会長)ある意味日本社会は成熟しているのではないか。反対運動が起きずに建設ができたことは、すごいことと思う。これが20年前だったら建設できていないのではないか。関係各位の尽力とその自立支援というものが、少しずつ少しずつ前に進んでいるのではないか。精神科独特のグループホームを開設できたということは素晴らしいことと思う。

●8050問題はこれから増えてくるという見通しか。

●なんでも相談等で、これまで明るみになっていなかった問題として今後増えてくると予想している。問題を早期に発見、早期に対応できるような、ネットワークづくりが、今後必要になる。

(会長)障害サービスから介護サービスへの移行について、60代を迎える障害者に何か問題点はあるか。

●デイサービスと自立支援センターとB型事業所で連携できないかということを考えている。生活介護も行おうと考えたが、70歳過ぎの人でも働きたいという人がいる。

(会長)8050問題として、地域の中で80歳の母親と50歳の息子のことが非常に問題になっていると思うがどうか。

●8050問題は地域の中で実際にある。収入は母親の年金に頼っており、息子は収入がない。母親が亡くなった場合、生活保護での対応となる。働ける体力があっても、気力的に働けないということがある。ひきこもりなどの問題も増えている。

●社会福祉士として成年後見人をしている。国が利用を促進しようとしているのだが、始まったばかりで、皆右往左往している。我々も、多職種と連携して利用促進に関して進めていきたい。

●成年後見制度についてだが、病院の家族会も今年はコロナの影響で1回も開かれていない。家族会の勉強会で、親亡き後のテーマの時には、参加者から質問も多い。成年後見制度を利用しようと話を進め、何件か成功した例もあるが、実際に進めるとなると、家族の考えもさまざまあり、苦勞して支援したケースがある。

(会長)成年後見制度については、利用促進を考える協議会があり、これから少しずつ前進していければと考えている。

2 議事

協議事項

(1) 宇部市障害福祉プラン(案)パブリックコメント実施結果について(資料3)

(事務局)宇部市障害福祉プラン(案)パブリックコメントの実施結果について説明

(会長)説明についてのご意見、ご質問はあるか。

■質疑応答等

(会長)教育や理解促進ということを挙げられているが、福祉系の学生へ教える立場として何か特

別な取り組みはあるか。

- 特別な取り組みはないが、地域の生の現場の話や動きを学生に伝える必要があると考える。
- 先ほどの法定雇用率に関する話だが、就労移行支援事業所を利用される人は早く就職したいという人が多く、2年間しっかりと支援できた人は少ないと思う。支援する側とすれば、得意不得意を見極め、特性をよく理解した上で、就職先に送り出したいという思いがある。じっくり取り組まれた人、生活のリズムが安定している人が、就職した後も長く定着できるのではないか。

4 その他

(事務局)パブリックコメント素案については、パブリックコメントの内容を踏まえ、案を修正し、各計画として策定する。今後、計画の印刷を行い、次回の協議会には、各委員に配布する。

・精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築（イメージ）（資料4）

(事務局)精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築（イメージ）について説明

(事務局)今後、精神障害にも対応した包括ケアシステムの構築について、協議をしていく必要があり、今後の予定として、自立支援協議会において協議していくということを説明。

(会長)本日の総括を副会長にお願いしたいと思います。

(副会長)皆様からのいろんな意見や考え方の中で、障害福祉プランができた。基本となるのは、障害特性の理解ではないか。障害者をどう理解してもらうか。障害当事者も他の障害者の方の特性も理解していく必要がある。私自身は、宇部市の身体障害者団体連合会の会長もしているが、その活動の中の事業として理解を進めていく。例えば、障害者ふれあい交流会の事業の中の活動として行う、市民の方も巻き込んで障害当事者と一緒に勉強会を開催する、また、スポーツと一緒にすることでその理解促進を図っていく。一方、私自身は視覚障害者であり、視覚障害者福祉協会としてもいろんな理解活動をしているが、障害特性を理解していくにあたって、特にこのコロナ禍においては、障害者からいろんな困り事がたくさん出てきている。視覚障害者は支援者に触れるなどして移動するため、ソーシャルディスタンスを保つことが難しい。いろんな面で困ることを理解されないことがある。障害当事者団体も障害当事者とも自らいろんな形でアピールし、理解してもらい機会を作っていく必要がある。障害福祉プランが、市民そして委員の皆さんのおかげででき上がった。PDCAのPができたわけだが、みんなが障害福祉プランを理解し、実施し、PDCAを行い、みんなが進めていきたい。

(健康福祉部長)閉会の挨拶